

事業内容：防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業
学校防災アドバイザー活用事業の実施

題名：防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業
(命の大切さを考える防災教育公開事業)
(帰宅困難・引き渡し)

－「生きる力」を育む指導の研究－

- ・学習意欲の向上を図り、「自ら学ぶ」力を育む
- ・「命の大切さ」を考える防災教育の充実

所属・電話番号：鎌ヶ谷市立第四中学校・047-444-2185

校長 石橋 哲弥

1 実施事業

- (1) 防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業の実施
- (2) 学校防災アドバイザー活用事業の実施

2 事業概要

- (1) 生徒の自助・共助の心を育むために防災講演会を実施する。
- (2) 学校における防災教育の取り組みについて、防災教育の視点を取り入れた授業公開を実施する。
- (3) 学校と地域住民の連携を高め、共通認識を深めるために合同避難訓練を実施する。
- (4) 災害発生時に、生徒を安全かつ確実に保護者に引き渡す方策を検討し、保護者、地域の協力を得て、訓練を実施する。また、帰宅困難生徒の対応を行う。

6月	・体験型防災訓練についての打ち合わせ① ・教科部会の開催、講師招へい	・学校 ・学校防災アドバイザー ・教育事務所指導主事
9月	・引き渡し訓練の実施 ・避難所運営ゲームの検討（1学年） ・体験型防災訓練についての打ち合わせ②	・学校 ・保護者 ・PTA 役員 ・学校防災アドバイザー
10月	・第2回担当者連絡会議	・学校 ・学校防災アドバイザー
11月	・防災教育の視点を取り入れた授業公開	・学校 ・地域
12月	・救命救急講習 (本校野球部が受講)	・学校

3 実施概要

月	計画事項	参加者
4月	・第1回担当者連絡会議	・学校 ・学校防災アドバイザー
6月	・自治体主催の防災訓練への参加	・学校 ・地域

4 担当者連絡会議

	氏名	所属及び役職
1	須原 敬浩	千葉県教育庁東葛飾教育事務所 指導室 指導主事
2	相馬 高広	鎌ヶ谷市教育委員会学校教育課 指導室 指導主事
3	尾白 眞一	鎌ヶ谷市中沢自治会長

4	田村 俊祐	鎌ヶ谷市役所市民生活部 安全対策課
5	石橋 哲弥	本校 校長
6	浅岡 正人	本校 教頭
7	関 紀久	本校 教務主任
8	海保 直樹	本校 安全主任
9	北村 信	本校 研究主任
10	高畑 厚紀	本校 生徒指導主任
11	小松 美友	本校 養護教諭

5 具体的な取組

(1) 「防災教育」の視点を取り入れた授業展開のための教科部会の開催・講師招へい

ア 内容

各教科・領域において防災教育の視点を取り入れていくため、定期的に教科部会を開いた。まずは、日ごろの授業の中で、防災教育の視点をどのように入れていくかアイデアを出し合い、検討した。

イ 講師を招いて指導を受ける

期日：平成27年6月4日（木）

各教科部会での検討を重ねた後、千葉県教育庁東葛飾教育事務所首席指導主事及び指導主事を講師として招き、各教科部会にて御指導いただいた。授業展開の方法や内容等について、具体例を挙げて各教科・領域ごとに御指導いただいたことによって、その後の教科部会での議論が深まった。

(2) 地域自治体主催の防災訓練への参加

ア 期日：平成27年6月28日（日）

イ 参加者

本校からは5名の職員が参加した。

ウ 内容

東中沢三丁目合同避難訓練

(ア) 三角巾を利用した応急手当

(イ) 心肺蘇生法およびAEDの使い方

(ウ) 簡易トイレの作成

(エ) 保存食の試食



写真は簡易トイレ作成の様

(3) 引き渡し訓練の実施

ア 期日：平成27年9月3日（木）

イ 実施内容

<当日の流れ>

① 地震発生 → ② 1次避難 → ③ 2次避難 → ④ MCA無線による市教育委員会との連絡 → ⑤ 帰宅経路の安全確認 → ⑥ 校舎内の安全確認 → ⑦ 引き渡し



鎌ヶ谷市内全小中学校が合同で行うシェイクアウト訓練の日程に合わせて、保護者への引き渡し訓練を行った。実際の災害を想定した訓練にすることを目指した。

ウ 保護者への引き渡し

(ア) 引き渡し方法

グラウンドに、保護者と生徒をクラス毎

に一列に並ばせて、担任が一人一人確認しながら引き渡しを行った。担任は、誰が引き渡しを完了したかを確実にチェックし、漏れのないように注意した。

また、引き渡し訓練は同じ日に小学校も実施しているため、兄弟が小学校に通っている生徒の保護者が参加しやすいように時間を3回に分けて実施した。小学校で兄弟を引き取ってから中学校に来る保護者が多く、実際の災害に近い形での訓練となった。



(イ) 緊急用引き渡しカードの活用

引き渡し時の混乱を避けるため、事前に「緊急用引き渡しカード」を記入してもらい回収した。記入してもらった項目は、以下の通りである。

- ・住所、氏名、緊急連絡先
 - ・本人の血液型
 - ・引き取りに来る保護者の名前
 - ・保護者に連絡がつかない場合、代わりに引き取る方の名前、連絡先
 - ・家族で決めている緊急避難場所
- 緊急用引き渡しカードを活用することで、混乱することなく、生徒を確実に保護者に引き渡すことができた。

(4) 鎌ケ谷市役所安全対策課との連携

ア 社会科授業における連携

3学年社会科の授業において、防災の視点を取り入れた授業として、市役所安全対策課と連携し、以下の取り組みをグ

ループごとに生徒が行った。

(ア) 鎌ケ谷の自然災害や対策の調査

生徒が市役所へ出向き、安全対策課の担当者の方へ直接インタビューを行った。



(イ) 防災倉庫について調査

安全対策課の担当者に学校に来ていただき、説明を聞きながら、何が入っているのかなど、防災倉庫についての調査を行った。



(ウ) グラウンド内にある耐震井戸の調査

安全対策課の担当者に学校に来ていただき、説明を聞きながら、耐震井戸の意味や有用性などについて学習した。

(5) 防災教育の視点を取り入れた授業公開

ア 期日：平成27年11月21日（土）

イ 実施内容

(ア) 体験型防災訓練



1 学年全生徒を対象として、体験型防災訓練を行った。学年をいくつかのグループに分け、生徒はそれぞれのブースを順番にまわって訓練を受けた。実施にあたっては、鎌ヶ谷市消防本部に協力を依頼した。説明だけでなく実際に体験することで、生徒の理解が深まり、大きな学びの機会になったと考えられる。

また、地域の方々も自由に参加できる形をとったことで、地域と学校が一体となって防災に対する意識を高める機会にもなった。

a 緊急地震速報を活用した閲覧型防災訓練

緊急地震速報が発令された際に取りべき行動など、実際に緊急地震速報を使って説明を受けた。

また、消防隊員による降下訓練の実演を閲覧することで、その後に行う訓練に対する姿勢を整えることができた。



b 煙体験

煙体験のブースでは、煙の中を通り抜ける体験をした。煙の中では、視界が真っ白になってよく見えないことや、煙を吸い込むことで意識を失い命を落とす危険があることを身をもって体験した。



c 心肺蘇生法



d 応急救護・搬送訓練



e 消火訓練



消火訓練のブースでは、火災の際の声の掛け方や消火器の使い方の説明を受けた後、消火器（訓練用）を使って実際に消火体験を行った。

(イ) 防災教育の視点を取り入れた授業

a 開した教科・領域およびその学習課題等

【国語】

- ・震災被害防止についての標語作成



- ・クロスロードゲームで災害時について積極的に考えよう

【社会】

- ・鎌ヶ谷市の防災対策を考えよう



【数学】

- ・班で協力して作図問題に取り組もう(共助の考えを取り入れた授業)

【理科】

- ・鎌ヶ谷市の天気を予想しよう

【保健体育】

- ・自然災害による傷害の防止

【技術・家庭】

- ・非常食をおいしく食べよう

【外国語】

- ・英語で外国の方を避難誘導しよう



【道徳】

- ・東日本大震災から命の大切さを考える



【特別活動】

- ・体験型防災訓練 ※上記(ア)

(6) 部活動生徒による救命救急講習の受講

ア 日時：平成27年12月19日(土)

イ 参加者

本校野球部員13名および顧問1名

ウ 実施に至る経緯

野球の競技中に、ボールが胸に当たって心室細動を引き起こすことがある。そういった際に適切に対処する力を生徒自身が身につけておくことは、日頃の部活動を安全に行う上で非常に重要である。また、災害時に心肺蘇生法が必要とされるケースも考えられる。そうした理由から、本校野球部で救命救急講習を受講した。今後は他の部活動でも実施していく予定である。

エ 講習内容

講習は約3時間で、実技が中心であった。この講習は一般の方も受講するものであり、講習後には、全員に救命講習修了証が授与された。

(ア) 急病人発見から119番通報

急病人発見の際、落ち着いて周りに声をかけ、119番通報とAEDを持ってきてもらうようお願いすることを学習し、生徒が実演した。

(イ) 心肺蘇生法

救急隊が到着するまでの間に心肺蘇生法を行うことが、生存率を高めるという説明を受けた後、生徒が実際に

体験した。

意識、呼吸確認から胸骨圧迫、気道確保と人工呼吸に至るまでの流れを人形を使って実演した。生徒にとって初めての経験であったため、始めはぎこちなかったが、練習を重ねることでかなり上達した。

(ウ) 自動体外式除細動器（AED）の使用方法

AEDを実際に使用したことがなく、使い方が分からない生徒がほとんどであった。講習を受けたことで、最終的にすべての生徒が正しいAEDの使い方を習得することができた。

6 成果と今後の課題

(1) 成果

ア 生徒の防災に対する意識の向上

各教科において日ごろの授業から、防災教育の視点を取り入れていったことにより、生徒が防災に対して考える場面が増えた。また、生徒の感想文などから、防災教育を通して命の大切さについて深く考えることが多くなっているようである。

イ 教職員の防災に対する意識の向上

学校防災アドバイザーからの指導などで学んだことで、日常の学校生活における安全指導、安全教育についての意識が高まった。また、危険等発生時対処要領の内容を改訂し、職員会議等で周知徹底を図るなど、実際の災害時の対応について日ごろから話題にすることが多くなった。

ウ 保護者への引き渡し体制の確立

今回初めて引き渡し訓練を実施するにあたり、中学校で実施してどれほどの保

護者が引き取りに来るのかなど、不安が多かった。実際に実施してみると、保護者が大変協力的であり、引き渡しカードの活用によってスムーズに実施できた。実際の災害時には更なる混乱が予想されるが、事前に引き渡しが実施できたことは本校にとって大きな財産となった。

(2) 今後の課題

ア 教科・領域における防災教育

今年度、すべての教科・領域において日ごろの授業から、防災教育の視点を取り入れていくという試みを行った。様々な手法で防災教育の視点を取り入れた授業を行うことが実感できた。この取り組みをいかにして継続していくかが課題である。今後も、タイミングを見極め、工夫して実施していきたい。

イ 緊急地震速報の継続的な活用

緊急地震速報を活用した訓練を行うことができたことは非常に効果的であった。今後は、緊急地震速報を更に有効に活用していく手法を学校防災アドバイザーなどから学んで、より良い活用方法を模索し、今年度以上に避難訓練等で日常的に緊急地震速報を活用できるようにしていきたい。